

2023年度業務実績報告書

提出日 2023年 12月 20日

1. 職名・氏名 助教・松崎かさね

2. 学位 学位 修士、専門分野 社会人類学、授与機関 首都大学東京大学院、
授与年 2020

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

- 1) 老年看護学実習（4単位）
- 2) 老年看護学演習（1単位）
- 3) 老年看護援助論（2単位）
- 4) 老年看護発展セミナー（1単位）
- 5) 卒業研究（看護学科）（3単位）

② 内容・ねらい

- 1) 急性期病院と介護老人保健施設での実習指導を行った。急性期病院に入院している高齢の入院患者、ならびに施設に入所している利用者の看護過程の方法や知識・視点を学ぶこと、また、施設での多職種の勤務のシャドーイングや見学・ケアの実施などを通して地域包括ケアシステムにおける課題と解決策を考えられることをねらいとした。
- 2) 排泄ケア（第4、5回）の演習と、急性期治療を受けている高齢者の看護過程の展開（第10～15回）の指導、事例の看護展開例の作成を担当した。排泄ケアの演習では、便失禁があった場合の援助技術の習得を目指し、看護過程の演習では学生がアセスメントの視点や学習方法、基本的な記録の書き方を理解できることを目指した。
- 3) 摂食嚥下障害のアセスメントと看護（第3、4回）の講義を担当した。加齢による変化と、摂食嚥下障害に関連したアセスメント、援助内容など、学生が高齢者の食の援助を具体的に理解できることを目指した。
- 4) 認知症専門病院でフィールドワークを行う学生へのサポート・助言などを行った。指導を通して、学生が高齢者の強みを引き出す看護の実際や、意思決定支援の実際などについてできるだけ自ら理解を深めることができることをねらいとした。
- 5) 学生2名の卒業研究の指導を行った。研究とは何かを理解し、説得力のある論文執筆を行うために必要な思考やスキルを習得できることを目指した。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

実習では、慣れない施設で日々の学習に追われながら実習を行っている学生が、できるだけ持っている力を出して伸び伸びと学べるよう、一人ひとりとの関係性を重視しながら指導にあたった。講義においては、学生が理解しやすいように動画などを多く用いて説明し、最後に実際の援助事例を紹介して習った知識がどのように活かせるか具体的なイメージが湧くようにした。排泄ケアの演習では、便失禁があった場合の陰部洗浄の手順書を作成し、デモンストレーションを行うことで学生が理解しやすいように努めた。看護過程の演習では、話し合いがあまり進んでいないグループにはなるべく多く関わるなど、学生全員が目標を達成できるよう指導を行った。卒業研究の指導では、学生が行いたい研究が最大限できることを重視し、これまで人文科学分野での研究活動で培った経験なども活かしつつ適宜必要な助言を行った。

(2)その他の教育活動

内容

・2024年2月フィンドレー大学短期研修に向けた学生サポートとして、飛行機チケットやビザの手配・申請、その他必要な手続きの周知、フィンドレー大学の担当教員との連絡調整などを行うとともに、English Presentationに関するパワーポイント資料の作成、発表練習に対する助言を行った。

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①著書	【 本】
②学術論文（査読あり）	
1. Kasane Matsuzaki(2023) A Study on the Pride of Elderly Fishermen: From the Sence of Distance from Old Age. <i>Journal of Comprehensive Nursing Research and Care</i> , 8(1) : 190-193.	【 1 本】
③その他論文（査読なし）	【 本】
④ 学会発表等	
1. 松崎かさね「漁港の終わり——伊勢湾で漁をする高齢漁師たちの語りから」 日本文化人類学会第 57 回研究大会 2023 年 6 月 3 日	
2. 松崎かさね「質的研究を整理する」 福井県立大学看護福祉学部研究セミナー 2023 年 6 月 21 日	
3. 松崎かさね「パーソンセンタードケアの構図（かたち）」 若年性認知症サロン 家族みまん。 2023 年 2 月 12 日	【 3 件】
⑤その他の公表実績	【 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
【学内】	
・ 福井県立大学 KF 枠研究費（2023 年 6 月 - 2024 年 3 月） 「三重県における高齢漁師たちの生きる論理に関する人類学的看護研究」	
・ 福井県立大学 個人研究推進支援（2023 年 8 月 - 2024 年 3 月） 「あり方としてのパーソンセンタードケア ——ベイトソンによる人間関係の 2 つの形式を伏線に」	
(3)特許等取得	
(4)学会活動等	
Journal of Comprehensive Nursing Research and Care, Editorial Board Member (2023 年 9 月～現在に至る)	
東京都立大学首都大学東京社会人類学会員（2018 年～現在に至る）	
日本文化人類学会員（2021 年～現在に至る）	
日本老年看護学会員（2021 年～現在に至る）	

5. 地域・社会貢献活動

- ・若年性認知症サロン 家族みまん。での月一回のミーティングの参加、会場の準備・後片付け、ミニ講義の実施（2021 年～2023 年 3 月）

6. 大学運営への参画

(1)補職

(2)委員会・チーム活動

実習検討委員会として、便培養検査にかかる業務、感染対策にかかる業務などを行った。（2023 年 4 月～現在に至る）

(3)学内行事への参加

(4)その他、自発的活動など